

従業員を守る！会社を守る！

53社が参加

新型インフルエンザ対策セミナー開催

この秋にも、「新型インフルエンザ」が世界中で大流行すると予想されており、その対策が急がれています。この新型インフルエンザは、過去に罹患経験がないため「免疫」がなく、短期間にまん延、長期化し、企業活動に多様な影響を与えると予想されています。

今回のセミナーは、こうした状況の中で、企業活動への影響や被害を最小限にとどめ、事業を継続するための対策や方法等を映像も交えわかりやすく解説するもので、去る9月2日(水)、明石市立産業交流センター研修室で開催しました。

講師には、BCP(事業継続計画)の普及に努めておられる㈱インターリスク総研の上席コンサルタントの吉田利秀氏にお願いしました。



セミナー要旨

1部 これだけは知っておきたいインフルエンザの基礎知識

現在、153カ国、18万人以上の感染者(死亡者125人)。日本でも約5,000人の発症例があり、その感染は拡大している。WHOは、パンデミック警報フェーズを「5」から最高度の「6」へ引き上げ、今後、感染拡大は避けたい状況にある。日本政府においても運用方針の改定をした。

特に今後の見通しは、①現在の流行は1~2年続く(秋に第二波の懸念)。②感染力が強まる可能性もある。③強毒性のH5N1新型インフルエンザ発生の可能性も否めない。

2部 従業員を守るための取り組み

職場で行う感染防止策は、①対人距離を保つ。②手洗いの実施。③咳エチケット。④職場の清掃・消毒。⑤従業員への教育の徹底。⑥会社としての支援策(備蓄品・社内ルール)が必要である。

特に、感染してしまった場合の留意点として、次の点が大切である。

- 従業員は会社に連絡し、出勤を控える。(会社側も決して無理をさせない。)
- かかりつけの病院に、まず電話。または発熱相談センターに相談し、医療機関の紹介を受ける。
- 病院に行くときは、必ずマスクを着用する。(来院している他の人にうつさない。)

3部 会社を守るための取り組み

早期に事業を復旧させ、損失を減少させるためには、事業継続を実現させるための計画策定(BCP)と、それを効果的に実行するための事業継続マネジメント(BCM)の取り組みが必要である。それは従来の防災計画とは異なるもので、ステークホルダー(企業の利害関係者)への影響防止が視点にある。

事業所において実施すべき対策には次の3点がある。

- 迅速な意思決定が可能な体制の確立
- 従業員や訪問者、利用客等を守る感染防止策の実施
- 事業継続の検討、計画策定(BCP)

実施にあたっては「どの段階で、何を、誰が、どのように」行うのかを整理することである。

さらに、今回のセミナーでは、新型インフルエンザ対策として、BCPに取り組むための具体的な事業活動の例や、意思決定のポイント、優先業務の特定と手順、想定シナリオ、スケジュール案などの説明がありました。

なお、当日のレジュメは、BCPの実践テキスト的な資料でもあり、希望される企業は、産業振興財団までご連絡ください。

企業の情報発信でビジネスマッチング

「明石ものづくり企業紹介」 毎月1,000件以上のアクセス

本年4月にリニューアルした「明石ものづくり企業紹介」(<http://akashi-kigyuu.net>) サイトに多くのアクセスがあり好調なすべり出しとなっています。当サイトの9月1日現在の訪問数は8,100件、登録企業は185社で、内アクセス100件を超える企業は32社となりました。

このサイトの特徴は、各企業の情報ページに自社の得意分野や商品の写真掲載が可能で、自社のパソコンから適時に更新して顧客への情報発信が可能なおことです。

また、掲示版では、各社に直接メッセージを伝えることのできるニーズ、シーズの投稿コーナーがありビジネスマッチングのための情報提供が可能です。企業活動に役立つ支援機関のセミナーなどの情報も掲載しています。

<財団からのお願い>

財団では、現在、新規加入企業の募集や各企業の情報ページの充実を呼びかけています。この情報サイトが更なる充実を図れるよう各企業のご協力をお願いします。



サイトのホーム画面

明石産業交流ミーティングを開催 東播磨地区の企業が活発に情報交換

産業界の話題や最新技術情報を提供し、企業間の交流の促進をめざす明石産業交流ミーティングを今年も7月7日(火)に明石市立産業交流センターで開催し、東播磨地区の企業や県下の支援機関から43名の参加を頂きました。

第1部では、明石高専第1期生で、世界を舞台に活躍する(株)長大総合研究所の国際事業部技術顧問の安井淳治氏から「途上国に橋を架ける」をテーマに世界に誇る日本の架橋技術・夢とロマンを築く架橋事業、また架橋を通じた国際貢献などを安井氏の実体験と内外の事例に基づき熱く語って頂きました。

第2部の交流会では、世界同時不況の中、厳しい経営環境にある各企業が景気回復への期待や各企業の取り組みなどの情報交換を活発に行いました。



明石海峡大橋(明石 1998年)



カントン橋
(ベトナム 2010年完成)



第1部 安井淳治氏講演



第2部 活発な情報交換交流会

第3回

明石発！ 発明発見展 に約1,000人が参加！！

8月16日(日) 産業交流センター・展示場で開催

発明やものづくりに興味をもってもらうと、県内の発明愛好家で組織するNPO法人兵庫県発明振興会の協力で開催した「明石発！発明発見展」に多くの市民の参加がありました。

会場には、今話題の「音が鳴るホイール」や、瓶などを乗せると片手で蓋があげられる「片手でふたが開くシート」など、ユニークな発明品やアイデア商品約100点が一堂に展示され、来場者の高い関心を呼んでいました。

また工作教室では、割り箸鉄砲、一反もめんの凧づくりなどの製作に熱心に取り組む子どもたちの姿が見られ、会場は終日にぎわいました。

北口市長
の挨拶



アイデア作品
の展示

トピックス ものづくりキッズクラブ 2社を工場見学

財団では、次世代のものづくりを支える子どもたちのための講座を7月から7回シリーズで実施しています。このたび、ものづくりの現場を知ろうとキッズクラブが2社を訪問しました。



コベルコクレーン(株) 7月28日(火)



(株)ノーリツ 8月18日(火)

これからの講座・セミナーなどの実施予定

セミナー名等	テーマ(内容)	実施予定
専門技術講習会	「心を伝える話し方」有名人のスピーチで学ぶプレゼンテーション術	9月24日(木)
神戸学院大学健康セミナー	「いきいき健やか長寿バンザイ」介護やリハビリのヒントなど	10月7日(水)
ステップアップ卓球教室	ヤマト卓球(株)専属コーチを迎え、卓球技術の向上を	10月12日(月)
科学実験ショー	「びっくりパワーアップ 空気の実験ショー！」科学の世界を体験	10月18日(日)
金融・経済セミナー	投資環境、投資商品の見直し大作戦など(3回シリーズ)	10月～11月
ライフプランセミナー	豊かな人生を過ごすために、必要なライフプランニングなど	11月

※上記のセミナーについては、広報あかし・情報定期便等で順次お知らせして募集していきます。

各種講座・セミナーの申込 (財)明石市産業振興財団 TEL078-936-7915 FAX078-936-7916 E-mail:info@aicc.or.jp

新しい科学・技術用語の解説

【有機半導体】

半導体の材料として、シリコンやゲルマニウムのような無機材料が有名で、現在でも半導体の主流です。このような半導体を素子化したものの1つがトランジスタです。トランジスタはその作用が発見されてからおよそ60年になりますが、いまだに電子機器には欠くことのできないものとなっています。

最近、「有機ELディスプレイ」などで注目される「有機半導体」も歴史は意外に古く、最初に有機化合物の半導体特性が確認されてから半世紀を超えています。しかし、その実用性(性能)の低さゆえに長年マイナーな存在でしたが、有機EL(エレクトロルミネッセンス)素子の製品開発に関する研究を皮切りに、2000年前後よりトランジスタへの適用化の研究が盛んに行われるようになり、「有機半導体も使える」という認識が広まってきています。

有機半導体をトランジスタとして利用する場合、動作速度は無機半導体には及びませんが、用途を考慮すれば実用化可能な性能を持っていることから活発な開発が行われています。

有機半導体を用いるメリットとしては、①通常無機トランジスタの作製には500～1,000℃もの高い温度が必要ですが、有機トランジスタでは室温～200℃で作製でき、しかも大きな面積に作製できるため、大幅なコストダウンができる。②プラスチックフィルム上に作製できるため、無機半導体では考えられなかったような柔軟で軽量のデバイスにすることができ。③トランジスタの構造が単純なため作製工程が簡単。などが挙げられます。

実用化には安定性や耐久性など改善しなければならない課題もありますが、有機半導体のこれらの特徴を活かし、軽くて薄く、丸めて持ち運びできるフレキシブル・ディスプレイなどのユニークな用途が拓けると期待されています。

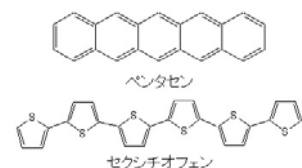


図 有機半導体の例

解説者：兵庫県立工業技術センター環境・バイオ部 平瀬 龍二氏

会社拝見

Vol.41

株式会社 **ソエィ**

所在地：明石市樽屋町6-6 資本金：1,000万円
従業員：30人 HP：http://www.so-eip.jp/



代表取締役社長
齊藤 雅彦 氏

Q：御社の事業内容をお聞かせください。

A：取扱商品は、商品用カタログ・パッケージ・会社案内・パンフレット・リーフレット・チラシなどの販促用印刷物、記念誌・出版印刷物・名刺・挨拶状・各種帳票印刷物の製造、販売・発送業務を行っています。販促用グッズ・POP看板・タペストリーなどの制作、ホームページ制作、印刷版のストック装置（特許取得）を開発し、大手メーカーに販売しています。

Q：御社の経営理念をお聞かせください。

A：お客様のベストパートナーであり続けたく、会社・お店の販売促進（チラシ・DM等）のサポート、斬新なアイデアで企業のイメージアップ（CIの勧め）自費出版・記念誌・広報誌等の編集支援活動も行っております。環境面では、2003年にISO14001（環境マネジメントシステム）取得により環境にやさしい会社を目指しております。創業時の屋号は「双栄印刷」で「双」は双方を示し、「栄」はお互いが繁栄するとの意味を持っております。この精神をいつまでも持ちつづけ社業に努めています。

Q：御社のセールスポイントをお聞かせください。

A：デザイン・企画制作から印刷、加工までを自社内で制作製造するシステムを持っています。多種多様な印刷物、しかも極少ロットから多ロットの印刷まで、全て自社内でこなせるのが強みです。また、東播磨地区で唯一の8色オフセット印刷機を2008年に導入しています。

Q：「ものづくり」に対するこだわりについてお聞かせください。

A：企画デザイン・製版・オフセット印刷・製本・発送までのトータルシステムを完備しています。全ての工程を自社内で行うことは、技術者の育成、数十台の機械の設備投資など大きなリスクを負うこととなりますが、お客様にご満足頂ける高品質な印刷物を、責任をもって制作するためには欠かせない条件であると考えます。また、物づくりは、人づくりと申しますように社内改善活動、新5S活動と社員教育にも力をいれています。

Q：今後の事業展開をお聞かせください。

- A：**●会社・お店の販売促進をサポート
- ①マーケティング・ノウハウの提供 ②企画・イベントデザインの提案
 - ③顧客のデータ処理
 - 出版・新聞発行に関する編集支援サービス
 - 会社（工場）見学会



外観



- 会社案内 ●カタログ ●ポスター
- チラシ ●機関紙 ●伝票 ●封筒
- 記念冊子 ●ダイレクトメール など

新着 ビデオソフトのお知らせ

No.	タイトル
1	見る！わかる！できる！製造現場の基本シリーズ① ものづくりの基本－品質・原価・納期－
2	見る！わかる！できる！製造現場の基本シリーズ② 安全こそすべて－労働災害防止の原則－
3	見る！わかる！できる！製造現場の基本シリーズ③ 現場のコミュニケーション－ことばづかいと命令・報告－
4	仕事パワーが2倍になる！ビジネス用語の基本①－お金の流れ編－
5	仕事パワーが2倍になる！ビジネス用語の基本②－新聞の読み方－
6	仕事パワーが2倍になる！ビジネス用語の基本③－ビジネス法則の基礎－



情報ライブラリーでは、来館者が自由に閲覧し、貸出できるように産業関係の図書やビデオソフト、DVD、雑誌を取り揃えています。新着ビデオソフトを入荷しましたので、ぜひご利用ください。

ご利用ください 企業活動を支援する各種の相談

企業活動を応援するため産業交流センター3階で相談事業を実施しています。気軽にご利用下さい。

経営相談
毎週 火～金曜日
10:00～15:00
明石商工会議所協力

技術相談
毎週 火～金曜日
10:00～17:00
明石テクノネットワーク協力

特許・商標相談
毎月 2・4土曜日
13:00～16:00（要予約）
（社）発明協会兵庫県支部協力